

重点活動課題

緑肥等を活用したグリーンな栽培体系による野菜の生産振興

ジュース用トマトにおけるグリーンな栽培体系の確立と生産安定

■活動の背景と目的

J Aながのみゆきジュース用トマト部会は、令和6年度の部会員は15名、栽培面積は、12.45haであり、10a当りの平均収量は5,431kgとなっている。部会員のうち、法人等で1ha以上の栽培者は3経営体で、栽培面積の8割を占めている。

そこで、「環境にやさしく」しかも「省力化」をめざす「グリーンな栽培体系」の一技術になればと令和5・6年度にマルチ麦の調査研究を実施した。今年度はほ場や経営に応じたマルチ麦等の活用促進と、数年前から「一挙収穫」を行っている経営体の栽培方法を調査し、画像や動画を作成し、栽培者の作業の効率化をめざす。

■活動の取組と成果

1 緑肥等を活用した化学肥料と除草剤の削減によるコスト低減

令和6年度のジュース用トマトにおけるマルチ麦活用試験で、早枯タイプの品種を用い、ジュース用トマト苗を定植後、5月中旬通路に手押し式播種機等で条播（条間約30cm）すると、7月中旬に枯れ始め、7月下旬に完全倒伏し、通路の抑草効果があり実用性が確認された。出荷反省会等で周知したところ、令和7年度は部会（トマト工業会）で、マルチ麦の種子代を助成することになり、部会役員等新たに3件が取り組み、マルチ麦の活用は、6経営体で面積7.8ha（R6 3経営体0.6ha）に拡大し、播種指導と効果確認を行った。また、水稻法人で一部もみ殻の利用試験を実施し、通路に厚さ約10cmの被覆で抑草効果が確認できた。



上：マルチ麦の活用



下：もみ殻の活用

2 一挙収穫等の導入による作業の効率化

「一挙収穫」はジョイントレスで同熟性の高い品種を用い、全体が熟したところで一挙収穫する方法で、管内では数年前より1回目に第1果房を中心に手採りし、2回目は振るい落としによる一挙収穫を行っているM経営体があり、作業の時期・方法を聞き取りするとともに画像や動画を撮影した。園芸振興協議会の県事業にもなり、広く事例を周知しようとJ A全農長野、加工メーカー等関係機関が連携し、J A全農長野の動画サイトにM氏の一挙収穫の事例が掲載された。詳しい内容については、調査研究課題実績書のとおり。



一挙収穫前の茎葉切断



振り落としによる一挙収穫



■今後の課題と対応

マルチ麦等の活用については、今後も播種方法等を指導するとともに効果の確認を行う。一挙収穫については、動画を活用し、従来の手採りと組合せて導入を促し、作業の効率化による栽培面積の維持拡大を推進したい。

（技術経営係 小林）

野菜・畑作農家でのグリーンな栽培技術の実証と提案

■活動の背景と目的

木島平村は早くから「環境にやさしい農業」を推進しており、野菜では令和5年度から白ネギ等を栽培する大規模生産者を対象に緑肥（ヘアリーベッチ）を活用した減肥試験を実施した。今後、さらに新たな品目、新たな緑肥等での活用実証を行い、クリーンな栽培技術として提案できる技術・事例を増やし、野菜・畑作農家へ提案し、取組農家と面積の拡大を図る。

■活動の取組と成果

1 有望技術の検証

（1）白ネギの緑肥（ハゼリソウ）を活用した環境にやさしい栽培実証

ハゼリソウは、発芽・初期生育が早い草種で、地表の被覆が早いと、土壌流亡や雑草抑制効果が期待できる。このため、昨年秋（10月11日）に白ネギ栽培ほ場にハゼリソウの種子を2kg/10a播種し、ハゼリソウの生育状況の確認と白ネギ栽培での基肥の減肥試験を実施した。

その結果、木島平村でハゼリソウを10月11日に播種したところ、11月中旬には土壌被覆率100%に達し、越冬前12月上旬には草高40cmになった。融雪後の4月には海苔状に枯死した。

また、ハゼリソウを緑肥として白ネギの基肥の減肥試験では、ほ場の地力窒素にもよるが、減肥が可能で、100%減肥することで、施肥労力と経費の削減が期待できる。

これらの結果を踏まえて、ハゼリソウは10月上旬の播種でも生育が早く、越冬前には土壌を被覆し、融雪後はのり状に枯死するため、融雪時の土壌流亡を防ぐことができる。また、春先枯死しているため、すき込みや腐熟期間を設けずにネギの定植が可能となり、白ネギの早出し作型にも対応できると考えられ、白ネギの作型と緑肥の導入（種類）を体系図にして示すこととした。（調査研究課題成績書参照）

（2）ズッキーニのヘアリーベッチを活用した減肥実証

ズッキーニでは、肥料効果の高いヘアリーベッチの晩生種を令和6年10月11日に5kg/10a播種した。越冬後生育し、開花前の5月27日草高40cm、生重約5kg/m²（N供給量約20kg/10a）となり、5月末にすき込みをした。そのままマルチをしたが、腐熟期間を設けなかったため、マルチがしづらかったと農家から意見があった。6月10日に無施肥でズッキーニを定植し、慣行区と比べ、生育・収穫量に差は見られなかった。今回は水稻農家で実施したが水稻作業を考慮し、緑肥のすき込みは5月上旬の実施が効果的と考える。



ヘアリーベッチの草量調査



ズッキーニの栽培

2 事例の周知と普及

本年度の緑肥等の播種作業を、主に飯水青年クラブ協議会の会員に実施してもらい、会員等で、現地検討会を実施した。

また、令和8年3月23日の村主催の畑作農業者意見交換会で、緑肥等の栽培実証事例を紹介した。



青年クラブ 現地検討会



畑作農業者意見交換会

■今後の課題と対応

白ネギでのハゼリソウの活用については、ハゼリソウを「天敵温存植物」として活用し、ネギハモグリバエの被害軽減につながるか検証する。また、飯水青年クラブ協議会のプロジェクト活動として取り組むことで、クラブ員等若い農業者への波及効果を期待したい。

（技術経営係 小林・地域係 竹元）

[重点取組 1：人材確保と皆が憧れる経営体の育成]

1 中核的経営体の育成

経営感覚に優れた農業者の育成

■活動の背景と目的

経営改善を行っていくためには、記帳により経営実績を把握し分析していくことが重要である。そこで、青年農業者や新規就農者を中心に農業簿記講座を開催する。また北信地域の農業を支え、発展させる中核的経営体の育成支援を行う。

■活動の取組と成果

1 複式簿記による記帳能力の向上

農業簿記講座は、北信州農業道場の選択講座として1月14日から2月4日の間で全4回、及び補講を開催した。17名が受講し、3回以上の出席者は14名だった。複式簿記の基礎、決算書の見方、記帳の開始方法、仕訳のルール等を学び、演習問題を解きながら理解を深めた。

また外部講師による市販の農業簿記ソフトの演習を行い、パソコンによる記帳作業を体験した。

受講生の多くが複式簿記の開始、簿記ソフトの導入を予定しており、講座で学んだ知識の活用、青色申告の実施が期待される。



農業簿記講座の開催

2 中核的農業経営体の育成

認定農業者の経営改善計画、認定新規就農者の就農計画、制度資金借入希望者の資金計画等の申請・認定支援を市町村・JAと連携し行った。令和6年度末の中核的経営体の実績は1,390経営体で、令和7年度目標値（1,230経営体）以上を維持している。

■今後の課題と対応

農業簿記については、今後も北信州農業道場簿記講座受講生を中心に基本的な記帳ルールの習得と経営実績の把握ができるよう進めていく。

中核的経営体の育成を市町村、JA等と連携し引き続き実施していく。（技術経営係 小松）

リーダー的農業者の組織活動の展開 (農業士協会 北シン支部)

■活動の背景と目的

今年度から農業士協会下高井支部と下水内支部が合併し「北シン支部」となった。会員は12名であり、支部独自研修や定例会等の活動支援を行った。

■活動の取組と成果

(1) 支部独自研修

7月17日、18日に山形県への視察研修を実施した。1日目は東根市の直売所、「よってけポポラ」とりんご農家のT氏農園を視察した。剪定や摘果の等の栽培管理について教えていただき、会員からも積極的に多くの質問が出された。2日目は花き農家の「堀切園」と「Sakuhana」を視察した。多くの品種を栽培しており、会員が自身の園地の話もしながら有意義な情報交換ができた。



山形県視察研修

(2) 北信ブロック研修

8月27日に農業士協会北信ブロック研修会を開催し、小布施牧場株式会社、果樹試験場、有限会社植木農園の視察を実施した。

(3) これからの長野県農業を考える会発表支援

8月に開催されたこれからの長野県農業を考える会にて、農業士を代表して当支部から「長野ブランド力の維持・強化」というテーマで提案が行われた。

■今後の課題と対応

役員会・定例会を適宜開催し、意見交換を行い、活発な支部活動を支援していく。

（地域係 宮原）

リーダー的農業者の組織活動の展開 (農業経営者協会 下高井支部)

■活動の背景と目的

農業経営者協会下高井支部は、中野市、山ノ内町在住の13名が会員で、地域農業・農村の先導的役割を果たすとともに、会員相互の連携、経営向上を目指し活動している。

■活動の取組と成果

1 県協農業経営者セミナーの開催支援

3月2日から3日にかけて、山ノ内町湯田中温泉ホテル豊生に宿泊して、全県下の農業経営者セミナーの開催当番支部として活動した。

今回から、セミナーの名称を「家族セミナー」から「経営者セミナー」に変更。会員の従業員まで参加の幅が広げられ、37名の参加となった。

研修テーマは「地域でどう生き残り、ファンをつくるか」で、講師はフリーパーソナリティ坂橋克明氏を招き、リスナーの声を聴き続けて見えた消費者が今「農家」に求めていることについて講演をいただいた。

2日目、(株)農業開発と(株)ケーアイ・オギワラを視察し、質疑も多く出され研修を深めた。



(株)農業開発の説明に耳を傾ける参加者

■今後の課題と対応

会員の減少が続いてきたが、次年度は新加入者の予定がある。4支部交流会と上高井支部との交流会の当番支部となるが、これらの研修開催を通して、魅力的な支部活動を目指していきたい。

(技術経営係 千野)

リーダー的農業者の組織活動の展開 (農業経営者協会 飯水支部)

■活動の背景と目的

農業経営者協会飯水支部は、中野市(豊田)、飯山市、木島平村、野沢温泉村在住の14名で構成され、地域農業・農村の先導的役割を果たすとともに、会員相互の連携、経営向上を目指し活動している。

■活動の取組と成果

1 社会福祉協議会への農産物の提供

支部独自の取り組みとして、社会福祉協議会に会員が生産した農産物の無償提供を行った。12月22日に、昨年の飯山市、木島平村に加え、野沢温泉村の社協にも、会員9名から提供のあった農産物を届けた。

2 地元県議との情報交換会

12月26日に、地元県議会議員3人の出席により下高井支部と共催で情報交換会を共催した。今後の農業への労力確保など出席者全員が建設的な意見交換が行われた。

3 下高井農林高校との連携

12月22日に下高井農林高校と支部の連携した活動に向けた意見交換会を先生と行った。また、9月30～10月2日に1年生33名の「農家体験研修」を会員が受け入れた。

4 北信4支部交流会

8月30日に北信4支部の交流会を行ない、24名の会員が集まり、活性化について話し合った。



北信4支部交流会

■今後の課題と対応

新規会員がなかなか増えない中、より一層の活動の活発化を図りたい。

(地域係 川村)

家族経営協定の理解促進及び 締結の実施

■活動の背景と目的

家族経営協定の締結は、農業経営のパートナーのやりがいや社会参画を目的に推進している。近年は事業申請要件の一つとして締結されるケースが目立っている。

■活動の取組と成果

市町村名	R 6 累計	R 7 締結	R 7 累計
中 野 市	276	6	282
飯 山 市	142	0	142
山ノ内町	63	1	64
木島平村	22	1	23
野沢温泉村	9	0	9
栄 村	7	0	7
合 計	519	8	527

1 締結の状況

今年度の締結数は8組であり、昨年度に比べ1組増えた。締結は補助申請関係の新規締結が多い。

市町村・市町村農業委員会と支援センターが連携し、家族経営協定調印式を中野市で2回、木島平村で1回実施した。

2 新規締結に向けた啓発

4月に「北信州農業道場共通講座」、7月に「新規就農者激励会」、8月に「北信州農村女性のつどい」及び山ノ内町や中野市による学習会、11月に「JA 中野市担い手研修会」、3月に「農業経営継承セミナー」などで協定の紹介をし、特に家族間での話し合いの重要性を説明した。また、ライフスタイルに基づく「営農・生活設計表」の作成も推奨した。

市町村農業委員会向けの研修は、農業委員の改選に合わせて昨年度までに一通り行ったため本年度は行わなかった。

■今後の課題と対応

締結内容が形式的にならないように、様式や例示方法を工夫する必要がある。後継者が親元就農した時や、独立就農などの機会をとらえて推進を図っていききたい。

(技術経営係 小松)

[重点取組 1：人材確保と皆が憧れる経営体の育成]

2 農業道場等による新規就農者の確保と担い手の育成

新規就農者の確保育成

■活動の背景と目的

農業者が減少し、担い手の確保が課題となっている。今年度は31人の新規就農者の確保を目標に（県下の目標は215人）、新規就農者の確保育成に取り組んだ。

■活動の取組と成果

1 就農相談の実施

就農コーディネーター、市町村担当普及員、市町村就農促進担当者が連携して就農相談を受けた。今年度の就農相談は24件だった。

○市町村・JA 合同就農相談会（7月6日、東京都）への参加

中野市・JA 中野市、山ノ内町と参加し、相談者はのべ11組14名（来場者は97組130名）。

独立自営で就農しようという決意の人は少なく、ほとんどは農ある暮らし志向もしくは農業を選択肢の一つとした情報収集段階だった。ただ、前年に比べると手ごたえのある案件も見られ、後日メールにより連絡を取り、農業体験につながった事例もあった。相談会後のフォローまで含めた支援が重要だと感じた。

○個別就農相談の実施

単独個別相談は4組、市町村（中野市、山ノ内町）との合同相談は20組、計24組の就農相談を実施した。

2 新規就農里親研修の実施

新規参入独立自営就農を目指し、中野市内で2名が今年度から里親研修（1名はりんご、1名はぶどう）を開始した。これに対し、市と連携しながら、栽培・出荷調整・販売流通、経営管理等の技術・知識の習得支援を行った。また、木島平村で研修2年目の2名（水稻）に対し、技術・知識の習得支援に加え、就農に向けた支援を行った。

独立自営を希望する就農相談者1名に対し、里親登録者3名との面談を実施したが、マッチングには至らなかった。

3 新規就農者激励会の開催

○新規就農者の把握

市町村、JA 等関係機関の協力を得て、新規就農

者把握のための調査を実施した。

令和7年度の49歳以下の新規就農者は29名。

<内訳>

就農地別：中野市10、飯山市2、山ノ内町11、木島平村2、野沢温泉村3、栄村1

経営作目別：果樹17、野菜6、菌茸2、作物1、複合3（作物＋野菜2、果樹＋野菜1）

親元就農17（うち新規学卒2）、新規参入12（県内出身者6、県外出身者6）

ぶどうの好調を反映して、果樹、特にぶどうでの就農が多く、また県内他地域と比べて親元就農が多いのが特徴となっている。

○新規就農者激励会の開催

7月31日に新規就農者7名、先輩農業者13名及び市町村、JA 等関係者22名の計42名出席のもと、新規就農者激励会を開催した。この後、販路開拓研修会、交流会を開催し、情報交換や交流を深めた。先輩農業者から誘われ、早速青年農業者組織への加入者が出るなど、有意義な交流ができた。



新規就農者激励会

■今後の課題と対応

地域で進めている品目、そのためにどのような人材を求めているかを明確に打ち出し、広くPRしていく必要がある。特に、ぶどう以外の品目での担い手をいかに確保していくかが課題となる。

また、就農後の早期経営安定のため、関係者一丸となって支援していく。

（地域係 川村）

[品目別講座の実施]

■活動の背景と目的

「北信州農業道場」による 自立した青年農業者の育成

新規就農者を対象とし、栽培基礎知識・技術の早期習得、経営の安定化を図ることを目的に北信州農業道場の品目別コース（もも・ぶどうコース、野菜・花きコース）を開講した。

なお、講座を3分の2以上受講した者には修了証を交付した。

[もも・ぶどうコースの実施]

■活動の取組と成果

管内において、もも栽培の機運が高まっていることから、果樹の選択コースでは、もも・ぶどうの2品目について講座を計7回実施し、受講生20人（修了生13人）であった。

講師は、JA中野市の営農技術員及び当センター普及指導員が務めた。

回	期日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	4/10	18	農薬適正使用*、年間管理、病虫害病除、芽かき（ぶどう）	合庁
2	4/21	14	農作業安全*、カイゼン*、スマート農業*、予備摘果（もも）	合庁
3	6/4	11	本摘果・袋かけ・新梢管理（もも）	現地
4	6/30	11	摘粒・新梢管理（ぶどう）	現地
5	9/16	12	秋季せん定・せん孔細菌病対策（もも）	現地
6	12/2	11	栽培反省、整枝・せん定（座学：もも・ぶどう、実演：ぶどう）	現地
7	2/26	(任意)	整枝・せん定（実演：もも）	現地

*：野菜花きコースと共通

1 講座内容

講座では、受講者が栽培管理を適時適切に行えるよう工夫を施した。

具体的には、第1回講座において、年間の栽培管理の流れを示し、主要な病虫害の生態と防除について講義を行った。

また、栽培管理が必要な時期の直前に講座を開催したことで、適期に管理しやすいよう道筋を示すことができた。

各講座の構成としては、座学による基本技術の理解と、園地で講師実演による講習を受けることで確実な技術習熟を目指した。また、講座終了後に個別で質疑応答の時間を設けたことで、受講生



講座の様子

1人ひとりの課題に寄り添った支援を目指した。

■今後の課題と対応

4月から就農した認定新規就農者等、本来支援が必要とされる対象への周知が不十分であった。

今後は、関係機関とより緊密に連携を取り、支援対象者の把握に努めたい。

また、りんごの摘果等の他品目の栽培管理と講座開催時期が重なったことで、出席できない受講者があった。今後は、受講生の栽培や経営の事情に合わせ、より細やかな支援を行っていく。

(地域係 西川)

〔野菜・花きコースの実施〕

■活動の取組と成果

野菜・花きコース受講生 13 人（修了生 5 人）

野菜（アスパラガス・きゅうり）と花きの基礎知識・技術習得支援を目的に、全 7 回の講座を開催した。

講師 JA 中野市：山田技術員（花き）、JA ながの坂井技術員（野菜） 農業農村支援センター：小田中担当係長（花き）、小林主査（野菜）



第3回 しやくやく現地圃場視察

野菜のアスパラガスは、最新技術である枠板式高畝ハウス雨よけ長期どりのモデルほ場を視察した。現地での講座は、用意した講座の内容以外にも質問が多く出た。また、花きは、JA にも協力いただき、しやくやくなどの栽培を紹介、現地視察をメインにしたため、参加者からの関心も高かった。

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	4/10	11	農薬の適正使用* アスパラガス・しやくやくの年間スケジュール	合庁
2	4/21	5	農作業安全、カイゼン スマート農業 *	合庁
3	5/21	5	アスパラガスの立茎 しやくやくほ場見学 (中野市)	現地
4	6/11	8	病害虫防除総論	合庁
5	7/17	7	花き現地視察(飯山市) きゅうり現地視察(木島平村)	現地
6	9/9	6	花き現地視察(飯山市)、アスパラガス現地視察(木島平村)	現地
7	11/5	7	土づくり、しやくやくの当面の管理、地域で栽培されている花紹介	合庁



第6回 アスパラガス現地視察

* もも・ぶどうコース、水稻講座と共通

1 講座の内容

野菜のアスパラガスときゅうりは技術習得を、花きは品目の紹介をメインに、現地での講座や視察を中心に講座を開催した。また、第 7 回の土づくりの講座では、希望する参加者のほ場の土をもってきてもらい、土壌診断を実施した。

■今後の課題と対応

前年度に引き続き、野菜・花きコースとして、アスパラガスときゅうり、花きを一つの講座にしたため、視察メインの花きに対する受講生の反応が良く、出席率が高かった。

野菜ではきゅうり、アスパラ以外の品目についての取り組みを検討し、花きでは現地視察をメインに栽培者が必要な技術を習得できるよう、今後も関係機関と連携し支援していく。

(地域係 青木)

[えのきたけ栽培講座]

■活動の背景と目的

北信地域のきのこは農産物産出額の6割を占める基幹品目である。特に中野市のエノキタケは全国一の生産量を誇る。しかし近年の世界情勢に伴い、培地等の資材と光熱費の高騰が経営を圧迫しており、よりロス率の低下による経営安定が求められている。本年度はきのこ地域支援チームで、後継者や従業員を対象に技術の向上を図ることを目的に「えのきたけ栽培講座」を開催した。

■活動の取組と成果

6月に各JA等を通じ、参加者を募集したところ、6経営体から12人の参加があった。

「えのきたけ栽培講座」の概要

7月16日(水) 午後2時から北信合同庁舎4階講堂で開催

(1) エノキタケの特性と栽培のポイント

講師：県農業技術課 風間副主任専門技術員

(2) エノキタケの害菌対策 講師：野菜花き試験場菌茸部 芳川研究員

(3) 熱中症対策について

特にエノキタケ栽培行程ごとの管理のポイントと、病害対策と併せた衛生管理について詳しく説明があり、関心が高かった。



えのきたけ栽培講座

■今後の課題と対応

きのこの販売価格は、回復したものの、培地等資材価格、光熱費の高騰は依然として続いている。

きのこ経営の安定化を図るため、次年度もJA等関係者と連携し、きのこ栽培講座を開催したい。

(技術経営係 小林)

[選択講座の実施]

■活動の背景と目的

青年農業者や新規就農者を対象に、「農業機械」「鳥獣被害対策」「農業簿記」「水稻」「きのこ」の計5講座を選択講座として開催し、それらの技術の習得を支援した。

■活動の取組と成果

[農業機械]

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	5/10	7	草刈機の安全な取り扱い、トラクターの日常点検	合庁
2	9/10	5	スピードスプレーヤーの点検、安全・適正使用	合庁

第1回講座では農業機械士下高井支部の清水氏、ミツワヤンマー株式会社に講師を依頼し、トラクターの日常点検や草刈機の安全使用について留意すべき点について説明を頂いた。受講生からは、「作業機の異常を早期に見つけるコツはあるか」「草刈機の刃はどの程度欠けたら交換すべきか」等活発な質問が挙がっていた。



トラクター日常点検の説明

第2回講座は秋の農作業安全月間および農業機械士主催トラクター行進と併せて開催した。本講座では、ミツワヤンマー株式会社にスピードスプレーヤー（以下SS）の安全・適正使用について講演いただいた。受講生からは、「SSに薬剤を積むと転倒しやすくなるから、気を付けな」と等農作業安全の啓発にも繋がる感想が挙がった。



SSの安全・適正使用

[鳥獣被害対策]

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	5/10	5	管内の野生鳥獣害の実態について 電気柵設置実習	合庁
2	9/10	3	適切な鳥獣被害対策 物理柵	合庁

第1回講座では、北信地域でみられる獣種別の被害状況の説明および、合庁の生け垣を利用して電気柵の設置の実習を行った。受講生からは「上手に電柵を設置しないと効果が無いんだな」等の声が挙がり、鳥獣被害対策について理解が深まった様子であった。



効果的な電気柵の設置

第2回講座では、農作物を守るための考え方、獣種ごとの生態と被害の特徴について座学を実施した。本講座では、北信地域野生鳥獣被害対策チームが設置した定点カメラの映像を用いて野生動物の様子を確認した。受講生からは、「実際の被害が動画で見られて勉強になった」等鳥獣被害対策について前向きな意見が挙がった。



定点カメラの映像

[農業簿記]

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	1/14	14	複式簿記の基礎、決算書の見方	飯山 庁舎
2	1/21	13	いろいろな仕訳	合庁
3	1/28	13	いろいろな仕訳と決算処理	飯山 庁舎
4	2/4	9	ソリマチ操作体験	合庁

※1/21、1/28、2/3、2/12 に補講を開催

第1回から3回講座までは座学および演習問題に取り組むことで仕訳の基礎から決算書の作成までを学んだ。講座は、①前回の講義内容について復習及び補足、②メイン講義、③演習問題の順序で実施した。



第3回講座の様子

第5回講座では受講生にパソコンを持ち寄ってもらい、ソリマチ体験版を使用した簿記記帳の演習を行った。勘定科目や部門の設定、減価償却台帳の作成方法などを通して、青色申告に係る書類の整備の仕方を学んだ。

受講生からは、「自分では判断の難しい勘定科目について、質問できて良かった」等本講座に対し

て前向きな意見が挙がった。また、講座欠席者を対象に補講を開催することで、受講生に対してきめ細かい対応を実施できた。

[水稻]

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	4/10	10	水稻の育苗と田植え後の管理	合庁
2	7/3	5	品種の特性・比較 幼穂形成期以降の管理	現地
3	1/23	1	今年度の振り返り	合庁

第1回講座では、育苗管理の注意点や病害対策について講義を実施した。第2回講座では、奨励品種決定試験ほを用いて、各品種特性や幼穂形成期以降の管理方法について確認した。第3回講座では、今年度の振り返り及び次年度注意すべき点について講義を実施した。



現地ほ場を用いた講座

いずれの講義でも、質問時間を長く確保することにより、受講生の満足度の高いものとなった。また、現地ほ場を用いた講義を開催することで、「確かに品種によって、生育の速度が全然違うな」等の意見が挙がり。水稻栽培に対する理解が深まった様子であった。

■今後の課題と対応

各講座の開催時期について、農繁期と重複し、受講生の出席が難しくなる場合があった。このため次年度は、各講座の開催時期について、再度調整を実施する必要があると考える。今後も各受講生のニーズを把握しながら、農業に対するより一層の理解促進に向け活動していく。(地域係 竹元)

[令和7年度北信州農業道場発表会]

■活動の背景と目的

北信州農業道場では青年農業者の課題解決に向けて、年度当初に対象者を選定、現状の中から個々の課題を明らかにし、その解決に向けて支援を行っている。

また、農業青年クラブでは毎年開催される「若人のつどい」等でプロジェクト発表、意見発表を行うための活動も行っている。

こうした青年農業者の活動を地域で発表する場及び北信地域の青年農業者と農業士、農業経営士、JA 青年部といった関係機関・団体の情報交換の場として「北信州農業道場発表会」を開催した。

■活動の取組と成果

1 北信州農業道場発表会の開催

(1)趣旨

北信州地域の青年農業者と関係機関・団体等が一堂に会し、これからの農業の発展方向について情報交換を行うとともに、青年農業者の取組事例を共有し、今後の経営発展と地域農業・農村の振興、担い手育成につなげる。

(2)主催

北信州農業道場推進協議会、北信農業農村支援センター、下高井農業青年の会ぽぷり、飯水農業青年クラブ協議会

(3)日時、場所

令和7年12月12日（金）午後2時から
長野県北信建設事務所 中野庁舎

(4)主な内容

- ・北信州農業道場修了証授与式
(もも・ぶどうコース、野菜・花きコース、計19名)
- ・青年農業者等意見発表・プロジェクト発表

(5)参加者 約50人

2 交流会の内容

(1)北信州農業道場修了証授与

もも・ぶどうコース、野菜・花きコースを受講した19名のうち、5割程度出席した受講生に修了証を授与した。今後の活躍が期待される。

(2)農業青年者等意見発表・プロジェクト発表
意見発表①

「ぶどう産地を持続させるために」

下高井農業青年の会ぽぷり 松本博司氏
意見発表②

「自身の農業計画」

飯山市（新規就農者） 眞田和宏氏
課題解決発表①

「モモの有袋栽培と無袋栽培における作業量と品質、収入額の比較」

下高井農業青年の会ぽぷり 藤森陽一郎氏

審査の結果、意見発表では眞田氏、課題解決発表では藤森氏が若人のつどい代表となった。

(3)関係団体の活動発表

①飯水農業青年クラブ協議会 竹内凜太郎氏

②下高井農業青年の会ぽぷり 藤森陽一郎氏

(4)情報提供

①農業者年金について

長野県農業会議 部長 土屋 剛氏

②農業共済・収入保険制度について

農業共済組合北信支所 鈴木昭男氏

③鳥獣被害防止に係る廃果対策について

地域係 西川普及指導員



農業青年者等意見発表・プロジェクト発表

■今後の課題と対応

今回は、名称を「交流会」から「発表会」に変え開催した。プロジェクト発表が2事例にならなかったことが残念であったが、対象とする青年農業者へのはたらきかけを早めに行い、更に充実した発表会にしていきたい。

(技術経営係 千野)

地域農業の担い手育成 (下高井農業青年の会 ぽぷり)

■活動の背景と目的

果樹・花き・きのこ生産者計21人からなる当会は、会員自らのスキルアップと中野市、山ノ内町の活性化を目標に活動している。当センターでは、それらの活動の支援を行った。

■活動の取組と成果

1 輸出セミナー

ぶどうの国内生産量は増加傾向にある。今後、国内市場の飽和が懸念されており、会員の中で農産物輸出への関心が高まっている、そうした中、5月26日に中野市で農産物輸出に取り組んでいる(有)小柳農園の新井氏を講師に招き、輸出セミナーを開催した。輸出の際に、まず、「何から取組むべきか」、「農産物輸出のメリット、デメリット」、「輸送中の鮮度保持方法」等を学んだ。



2 岡山県視察

岡山県への視察研修を7月28日から29日にかけて実施した。「勝英地区現地圃場」と「農業研究所」を視察した。勝英地区ではぶどうの植付段階から将来的な樹勢を踏まえた栽培管理をしており、参加者の関心は高く、多くの質問が出された。



岡山県視察

■今後の課題と対応

今年度は果樹農家3人が新規会員として当会に加入した。今後も活発な活動を通じて、会員同士の交流につなげていきたい。(地域係 青木)

地域農業の担い手育成 (飯水農業青年クラブ協議会)

■活動の背景と目的

当会は、木島平村を中心とした野菜・水稻・きのこ栽培者11人からなり、相互研鑽・農業意欲の醸成を図るため、販促会・勉強会等を行っている。当センターでは、各種活動の支援・後押しを行っている。

■活動の取組と成果

1 飯水メンバーの納屋、作業場、ほ場巡回

8月18日に、飯水メンバーの納屋、作業場、ほ場巡回を行った。参加メンバーの農作業中に工夫していることや、オススメしたい農作業道具の情報を共有した。会員からは、「他の家に訪問する機会が無かったから、楽しく学べるな」「この道具は便利だな、俺も使ってみようかな」等勉強会に対して前向きな声が聞こえた。

2 マルシェへの出店

10月19日に、イケサンパーク(東京・池袋)で開催したファーマーズマルシェに会員4人が出店した。新米、野菜(ぼたんこしょう、白ネギ等)、きのこを販売した。今年度は昨年度の反省点(会計対応するメンバーを固定する等)を活かし、運営をスムーズにすることができた。今回のマルシェでは、参加会員の出品物を1ブースでまとめて陳列したため、消費者の購買意欲をそそる商品陳列方法や話術等、会員同士で学べる機会となった。

■今後の課題と対応

勉強会やマルシェ出店時に学んだ手法を活用するとともに、把握した課題を改善しながら、会員自身の農業に対する意欲向上を図っていく。また、次年度の4月から3人の新規会員が加入予定である。今後もより活動を充実させ、会員同士の交流に繋げていきたい。



飯水農業青年クラブ協議会 活動の様子

(地域係 竹元)

[重点取組 1：人材確保と皆が憧れる経営体の育成]

3 女性農業者の育成と地域リーダーの育成

農業と生活の技術・知識の習得 (農村生活マイスター 下高井支部)

■活動の背景と目的

農村生活マイスター下高井支部は、中野市・山ノ内町在住の会員 30 人で構成され、会員や支部間の交流を深めながら、地域の食と農村文化の継承や農村生活の活性化に向けて活動している。

■活動の取組と成果

今年度は、郷土食や食育にまつわる内容について重点的に活動した。

1 食文化の伝承

4 月 16 日に山ノ内町の公民館で食文化研究家の横山タカ子氏、北信濃食文化研究会、町在住の会員により、町内の伝統料理「早そば」や葬祭にまつわる食事について情報交換会を行った。地域の伝統料理を通じて、食文化の来歴や風習を継承することの重要性を感じた。



山ノ内町の郷土食

2 牛乳・乳製品利用料理講習会

1 月 19 日に中野市内のフレンチレストランで乳製品を用いた食事を味わいながら、会員の交流を深めた。シェフからは手軽に作れるデザートの作り方を教わり、上手に乳製品をメニューに取り入れるコツを学んだ。

■今後の課題と対応

会員の高齢化等により会員数が減少傾向にあり、活動が年々縮小している。新規会員の勧誘を積極的に行い、地域食材や伝統食を次世代に受け継ぐ活動を続けていく。

(地域係 西川)

農業と生活の技術・知識の習得 (農村生活マイスター 下水内支部)

■活動の背景と目的

農村生活マイスター下水内支部は、飯山市、木島平村、野沢温泉村、栄村の会員 21 人で、地域の食の伝承や食育推進等の活動をとおり、地域の活性化を目指している。

■活動の取組と成果

1 「第4長野県食と農業農村振興計画」の女性活躍に関するアクションプラン推進事業

里山に増えつつある野生動物への対策を考え、捕獲された害獣の活用方法を学ぶことを目的に、初めて下高井農林高校と連携して事業を実施した。

10 月 7 日は、獣害対策についての基礎知識を林務課鳥獣対策専門員より学び、その後校内にて狩猟免許を持っているマイスター会員と野沢温泉村猟友会員から「くくり罠」の設置を学んだ。



くくり罠の設置実習

11 月 25 日は野沢温泉村中華料理店のシェフを招き、調理室において捕獲されたクマとシカの活用方法を学んだ。両日とも世代を超えた学びとなり、高校生からまた一緒に行いたいとの感想を得られた。

2 地域における農村文化の伝承事業

支援センター主催事業へ企画から当日の運営まで支部として積極的にに関わり、10 月 22 日飯山市トピアホールで、「北信地域のササ活用文化を学ぶ」と題して環境保全研究所の講演と事例発表・調理実習（笹ずし、笹もち、ちまき）を実施した。

50 名に近い参加者がおり、関心の高さがうかがえた。

■今後の課題と対応

支部の活動により会員同士の交流が深められるよう活動内容の検討支援を行っていく。

(地域係 赤羽)

農業と生活の技術・知識の習得 (長野県農村生活マイスター養成)

■活動の背景と目的

農村生活マイスターの活動の発展充実のため、当センターでは新規会員の確保・育成に取り組んでいる。令和7年度は管内3名の認定を支援した。

■活動の取組と成果

1 当センターでの取り組み

農村生活マイスターの支部会員から候補として挙げた人に対して、支部長や会員とともに声掛けや、農村生活マイスターについての説明を行い、飯山市から3名新規マイスター養成研修に推薦した。

2 長野県農村生活マイスター事前研修

令和7年度長野県農村生活マイスター事前研修の日程は下記のとおり。

- 第1回 6月23日 女性活躍とマイスターの役割
- 第2回 7月15日 男女共同参画 6次産業化
- 第3回 8月20日 講演「地域再構築の中で自分、地域が変わる」 先輩マイスター体験
- 第4回 9月5日 レポート演習

管内の農業について 高橋所長
マイスターの活動について
佐藤弘子下水内支部長
私が考える農村生活マイスター

- 第5回 10月21日 グループ討議
- 3月18日 認定証授与式

当センターでは、第4回の研修を北信合庁で開催した。3名からそれぞれ現在の状況やマイスターとして描いていることを発表してもらい、レポート作成につながる助言等を行った。その後レポート作成の助言、やりとりを経てレポート完成につなげた。

■今後の課題と対応

新規に認定された農村生活マイスターが支部に溶け込めるよう支援し、今後も農村生活マイスターの活動を活発にするため、両支部で新規マイスターの掘り起こし等の活動を行う。

(地域係 赤羽)

農業と生活の技術・知識の習得 (女性農業者組織の自主的活動)

■活動の背景と目的

農村女性ネットワークたかやしろは、農村女性セミナーの修了生で構成され、農村生活の発展を目的に活動している。

■活動の取組と成果

今年度は、中野市と山ノ内町在住の18名で野菜栽培や郷土料理の講習会等の活動を行った。

1 さつまいもの栽培体験と料理講習会

会員のほ場を借りてさつまいもを栽培した。秋に収穫したさつまいもは、冬の料理講習会で使用し、さつまいもを使って熊本県の郷土料理である「いきなり団子」やいもきんとん、いもけんぴを調理し、品種による違いを味わった。



さつまいも料理講習会

2 果樹管理講習会

中野市の会員のほ場で、りんご・ももの栽培管理を学ぶ講習会を実施した。講習会では、高温干ばつの対策や、りんごの着色管理や昨年発生が多かった病害虫についての関心が高く、多くの質問や意見が挙がった。

■今後の課題と対応

会員の高齢化から会員数の減少や活動の縮小が検討されている。今後も地元の農産物を活かした料理講習会や果樹講習会等、会員それぞれの経験を存分に発揮し、活発な活動ができるよう支援していく。

(地域係 西川)

社会参画の推進

〔北信州農村女性のつどい〕

■活動の背景と目的

「北信州農村女性のつどい」は、管内の女性農業者を中心に農業関係者等が一堂に会し、地域内外の先進的な取組事例や活動を共に学び、交流する場となることを目的に開催市町村を変えて毎年実施している。今年度は山ノ内町で開催された。

■活動の取組と成果

1 地域の特色を生かした魅力ある発信

山ノ内町は渋・湯田中温泉や国立公園の一部である志賀高原を有することから、観光業が盛んである。そこで、「農業と観光」をテーマに、志賀高原総合会館98で8月26日に開催することとした。

2 「北信州農村女性のつどい」の内容

当日は、管内外から女性農業者や農業委員、市町村議会議員等、150人以上の参加があった。

（1）フリーマーケット

18団体から、とうもろこし、おやき、笹ずし、温泉まんじゅう、手作りのアクセサリ等、様々な出店があった。また、出店者と購入者で交流ができ盛況であった。

（2）アンサンブル演奏

開催の前のアトラクションとして、志賀高原に夏の合宿として滞在している東京科学大学管弦楽団によるアンサンブル演奏が行われた。一生懸命に演奏する姿を見て、「普段聴けない生演奏が素晴らしいかった」という感想が挙がった。



演奏の様子

（3）事例発表

管内の5事例について、それぞれ事例発表が行われた。

①農業から観光、そしてまた農業へ

野沢温泉マウンテンリゾート観光局

局長 小田切 美幸 氏

②地域の人々や消費者と対話し、顔の見える農業に。

北原丸徳農園 北原 成枝 氏

③農業×観光

ホテル豊生 （有）金子

事業部長 金子 真一朗 氏

④地域に根差したお店づくり

米屋のおにぎり “結や” musubiya

友野 晴可 氏

⑤地元農家さんとの関わりから学ぶ

女将の会 ゆのか

御宿炭乃湯 女将 竹節 みどり 氏

一乃湯果亭 女将 兒玉 布佐子 氏



事例発表の様子

3 総括

事例発表を通じて、運営にあたった農村生活マイスター会員から「農業と観光」というテーマから観光客や外国人等の地域外から訪れる人に目が行きがちであったが、地域にはたくさんの魅力があることを再発見する良い機会だった」と感想があった。

また、農業と直接的な関わりの薄い参加者からも「農業の楽しさが伝わる内容だった」との声があり、農業への関心が高まったようである。

■今後の課題と対応

実行委員の高齢化や人員減少等により、従来通りの規模や内容での開催が危ぶまれている。

今後も継続的に開催するため、開催の在り方について関係者と検討を重ねていく。

（地域係 西川）

〔北信州農村女性団体による視察研修〕

■活動の背景と目的

北信地域の女性農業者団体の会員が農業の技術向上や農産物加工の知見を深めるため、国庫補助事業を活用し、観光農業や直売所の運営が盛んな下伊那地域（飯田市・豊丘村）の視察研修を11月13日に行った。

■活動の取組と成果

当日は、管内の5団体から10名の参加があり、視察研修及び意見交換会を行った。

1 視察研修

飯田市でしめじ栽培を行う傍らでりんごの収穫等の農業体験を含めた民泊業、シードルの販売等を行う(株)太陽農場を視察した。代表の殿倉氏は留学経験を生かして外国人宿泊客を積極的に受け入れ、SNSを活用して農業の魅力発信を幅広くされているとのことであった。参加者からは、「農業を核にした人との繋がりを自分も楽しみたい」、「若く、挑戦的な姿に感心した、目が覚めた」といった感想があった。

2 意見交換

豊丘村で地元野菜を使いビュッフェ形式で様々な料理を楽しめる「道の駅豊丘村 とよおかマルシェ」にて食事をしながら参加者間で意見交換を行った。参加者の多くは農業委員やJAの理事等の役職を経験してきたことから、女性の農業分野での活躍が重要であると話題が尽きなかった。



視察研修の様子

■今後の課題と対応

本研修を通じて、参加者から女性が農業に従事することの悩みや様々な関心事が聞こえた。今後は、これらの解決の一助となる研修を開催できるよう内容の充実を図っていく。

（地域係 西川）

〔飯山市農村女性団体連絡会〕

■活動の背景と目的

飯山市農村女性団体連絡会は「第5次飯山市男女共同参画計画（令和7～11年度）」の推進のため、関係3団体（芽ぶきの会、いいやまふれあい市の会、農村女性マイスター協会）が連携して活動を行っている。

■活動の取組と成果

1 かあちゃんの軽トラ朝市

飯山地区農業再生センターの共催で「かあちゃんの軽トラ朝市」を開催した。11月16日に飯山市「雪と寺のまちシンボル広場」にて、生産者と消費者とが直接関わることを目的に実施し、軽トラ等で12名の販売があった。いいやまふれあい市の会を中心に、長ネギ、白菜、野沢菜等の秋野菜、手作りこんにゃく、笹ずしの販売があった。開始時間前から販売を待つ消費者もあり、たくさんの消費者と交流ができた。寒い日であったが、里芋汁の提供もあり、心も体も温まるもてなしがされ好評であった。



かあちゃんの軽トラ朝市

■今後の課題と対応

毎年、年齢を重ねることにより活動が少なくなっていくが、無理のないよう活動を続けていく。

（地域係 宮原）

[重点取組 1 : 人材確保と皆が憧れる経営体の育成]

4 中核的経営体の経営発展

先進的農業経営体の育成と経営安定 (農業経営者総合サポート事業)

■活動の背景と目的

農業経営体が抱える、法人化、労務管理、経営継承等の様々な課題の解決を図るため、支援センターには経営の相談窓口が設置されている。対象者に対し、伴走支援や専門家派遣等により課題解決に向けた支援を行っている。

今年度は、重点支援対象者等を 14 経営体設定し支援を行った。

■活動の取組と成果

1 重点支援農業者等への支援

No.	市町村	作目	主な課題
1	中野市	水稻	労働力確保、労務管理
2	中野市	加工	組織の方向性、原価計算
3	中野市	果樹	法人化等経営ビジョンの検討、施設導入検討
4	飯山市	水稻	生産技術、園芸品目の導入検討
5	飯山市	水稻	経営改善、営農計画作成
6	飯山市	水稻	経営改善、販路拡大、労働力確保
7	飯山市	野菜	第三者継承
8	山ノ内町	菌茸	法人形態の変更
9	木島平村	野菜	生産技術、労務管理、経営計画作成
10	木島平村	水稻 野菜	労働力確保、乾燥施設の導入検討
11	木島平村	水稻	2 経営体による法人化、法人化後の課題把握
12			
13	木島平村	水稻	第三者継承、経営の方向性検討
14	木島平村	畜産	経営継承、経営の安定

昨年度からの支援継続の対象者 9 件（法人 4、任意組織 1、個人 4）に、今年度新たに 5 件（法人 1、個人 4）の対象者を追加した。各経営体の経営や技術上の課題を把握し、市町村・JA と連携し伴走支援を行った。

専門家派遣は、中小企業診断士による事前診断 3 回、経営アドバイザーによる経営分析・経営計画作成支援 1 回、税理士による経営継承の助言 1 回を行った。4 経営体に対し計 5 回の実施となり、対象者の満足度は高く、一定の成果は得られた。

伴走支援では、商品の原価計算、新品目の導入検討、助成事業の紹介、雇用確保の方法、投資計画などの支援を行った。

しかし課題が複雑化する中で、目標達成を断念（方向転換）するケースもみられた。対象者との信頼関係の構築がより重要になっており、また多様な課題に対応するため支援が長期化する傾向が伺える。

2 農業経営継承セミナーの開催

経営継承に伴う相談が複数件あることから、3 月 24 日に「農業経営継承セミナー～円滑な親子間継承に向けて～」を北信合庁で開催した。

税理士の野口英理氏が「農業の親子間経営継承における取り組むべき要素と承継手法のポイント」と題して講演を行った。講師からは、継承は事例によってどう対応するか大きく異なるということを前提に、相続税と贈与税、家族間の経費の支払い、継承時に確認しておくべきこと等、税理士ならではの詳しい解説があった。

当センターからは「農業の親子間継承の課題と進め方」として話し合いや継承計画作成の重要性を説明した。

実際に継承を検討している農業者 18 人が参加し、アンケート結果等から参加者の関心の高さが伺えた。



農業経営継承セミナーの開催

■今後の課題と対応

法人化、労務管理、経営継承、経営計画作成等の課題を抱える経営体に対し、専門家派遣等を活用しながら支援を行っていく。

(技術経営係 小松)

カイゼン手法の導入による 労働生産性の向上

■活動の背景と目的

農業者が自らの課題に気づき、労働生産性の向上や人材育成などが図ることができるよう、カイゼン手法の導入を推進する。

■活動の取組と成果

1 実践農業者への支援

対象者2件の実践支援を行い、うち中野市ぶどう農家（農業青年クラブ員）の事例を記載する。

(1) 倉庫内の整理・整頓（2Sの徹底）

年1回しか使用しない道具や不要品で溢れていた倉庫の2Sを行った。当センターからの働きかけが引き金になり、一気に行ったことで成果に繋がった。現在も整頓が維持されている。



倉庫の2Sのbefore-after

(2) 出荷調整作業の課題の明確化

家族、従業員、同業の青年クラブ員、職員にてお茶を飲みながら気付いたことを出し合うミーティングを行った。また作業の動画撮影を行い、農業者からは新たな視点が得られたと評価された。農業者のカイゼンへの意欲が一層高まり、来年度も取組みを継続する意向である。

2 カイゼン手法の啓発推進

4月に北信州農業道場にてカイゼン手法の講義を行った。また、3月に下高井農業青年の会ぽぷりの会員を対象に勉強会を行った。上記クラブ員の事例紹介等によりクラブ員の関心が高まり、波及効果が期待される。

■今後の課題と対応

カイゼンに取組みやすいように、身近な整理整頓や動線改善などの事例紹介を行っていく。

また、カイゼンは継続が重要であり、対象者の実践を見守ると共に、仲間同士での取組みを支援していく。
(技術経営係 小松)

[重点取組 1：人材確保と皆が憧れる経営体の育成]

5 多様な労力の安定的確保

農外就業者による果樹等の 管理支援の仕組みづくり

■活動の背景と目的

山ノ内町の主幹品目になっているりんご・ぶどうは摘果や摘粒等の特定の時期に多くの人手を要する。一方、スノーリゾートや温泉街の旅館といった観光業の閑散期やすき間時間を有効活用したいという意見が挙がっている。そこで、「農外就業者」を対象に、町内の果樹管理作業に従事できる人材を育成し、労働力不足の解消を図る。

■活動の取組と成果

1 「農作業入門講座」の開催

町やJAと連携し、農作業体験講座を開催した。当センターからは受講者へ農作業安全や基本的な技術の指導を行った。

日 時	内 容	受講者数
5月23日	りんご（あら摘果）	4名
6月25日	ぶどう（摘粒）	5名
10月4日	りんご（葉摘み）	5名
11月26日	りんご（収穫）	2名

2 一日農業バイトアプリの利用促進

上記講座や、町内の地区ごとに開催されている農業振興会議(町農業再生協議会主催)において、一日農業バイトアプリ「daywork」や町独自の雇用マッチング制度を紹介し、労使ともに登録及び利用を促した。

■今後の課題と対応

りんごやぶどうにおける労働力確保は山ノ内町だけでなく北信地域全体の課題となっている。そこで、今後は町内の取組を波及させ、地域として労働力確保支援のための技術指導等を行っていく。

(地域係 西川)

福祉との連携による野菜等の安定生産

■活動の背景と目的

農業分野において、障がい者の雇用就労を通じた農福連携の取組を推進し、労力が不足する農業と、雇用を求める福祉事業所双方のニーズをマッチさせる。

■活動の取組と成果

福祉事業所の施設外就労の体験を通じ、農業者及び普及指導員、福祉事業所等が、実施上の課題や留意事項等について理解を深めるために、「お試しノウフク」を実施し、継続実施につなげた。

(1) 実施時期 8月1日以降10月末まで

(2) 実施場所 山ノ内町

(3) 作業内容 ピーマンなどの収穫

お試しノウフクは、作業前に農業者から作業内容が伝えられ、事業所の方と利用者の3名が内容の確認を行い、作業を開始した。当日は農業者と作業者の意思疎通がスムーズにでき、気持ちよく作業できた。



作業風景

その後、収穫作業が続き、その中で、注意いただいた内容は協随时伝えて改善し、いい関係で事業を終えた。

■今後の課題と対応

利用者は責任をもって作業を進めていた。

今後も、利用希望農家の掘り起こしを行い、セルフセンターを通じたマッチングを行っていく。

(技術経営係 小田中)

[重点取組2：持続可能な農業の取組とデジタル技術等の活用]

1 GAP手法による安全・安心への取組の強化

安全安心なきのこ栽培の推進

■活動の背景と目的

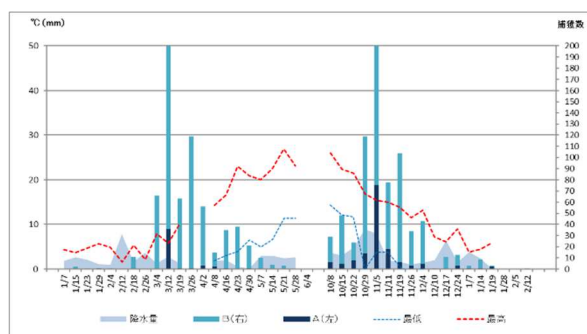
きのこ生産にとって、収量・A級品率の確保が極めて重要である。近年、培地資材や燃料光熱費が高騰し、経営を圧迫している。このため地域支援チームにより、「えのきたけ栽培講座」（「農業道場」の項参照）を開催するなど、安定生産に向け、JA、試験場、専技と連携し、課題解決に当たった。

■活動の取組と成果

1 異物混入防止対策

11月にJAながので、全農長野の協力を得てGAP手法による巡回指導を行った。志賀高原ブロックでは、エノキタケとブナシメジの計18件で、衛生管理と異物混入防止対策チェック表により改善点を指導した。特に、荷づくり室での異物混入要因の排除や、整理整頓等について指導した。

またキノコバエの発生消長調査を飯山市、中野市、山ノ内町で実施し、JA、試験場、専技と情報共有するとともに、生産が本格化する秋口には、施設内への飛び込み対策を実施するよう注意喚起した。



キノコバエの発生消長調査（中野市）

2 安定生産による経営の改善

きのこ栽培のロス品率を低減するため、JA・試験場・専技と連携し、害虫・害菌の対策等を提案した。

■今後の課題と対応

きのこ資材や燃料光熱費が高騰している中、関係機関と連携し、経営改善のため、他部門との複合経営の提案や栽培を支援し経営安定を図る。

（技術経営係 小林）

GAPへの取組推進

■活動の背景と目的

生産現場において持続的な農業生産につながるGAPの実践が求められており、管内のきのこ生産者を中心にGAPへの取組みを推進した。

■活動の取組と成果

1 対象者に合わせた段階的な認証取得の推進

(1) 昨年モデル法人がJGAPとASIAGAPを取得し、本年度維持審査を受けるにあたり、専技・当センター担当者がチーム員として、検討会に参加した。また6月12日の維持審査当日は、当センター職員が研修の機会としてアドバイザー参加した。

なお、ASIAGAPについては、2025年4月に日本GAP協会より、2028年で運用を終了し、JGAPに一本化する方針が出され、今後の対応についても併せて検討した。



GAP 審査

(2) GAPへの理解を推進するため、農業道場での各種講座ほか、農産物直売所等を対象に計10回の研修会等を開催した。



農作業安全講習

■今後の課題と対応

長野県GAPが国際標準化され、「知る」GAPから「する」GAPへと、農業者個々のリスクを明確化し、実践をすすめる。

（技術経営係 小林）

[重点取組 2：持続可能な農業の取組とデジタル技術等の活用]

2 環境にやさしい農業など持続可能な農業の取組の推進

化学肥料・化学合成農薬使用の低減を進める認証制度の普及推進

■活動の背景と目的

消費者の食への安全意識や環境意識が高まる中、ニーズに応える農産物生産が求められている。

国は、令和4年に「持続農業法」から「みどりの食料システム法」を制定し、従来の「エコファーマー」からの通称「みどり認定」への移行を進める必要がある。また、「信州の環境にやさしい農産物認証」の取得推進と計画作成指導等を行った。

■活動の取組と成果

1 みどり認定の取得推進

新制度「みどり認定」（旧エコファーマー）の取得を推進するため、農業道場等で制度の周知を行った。

2 信州の環境にやさしい農産物認証制度

令和7年に北信管内で、信州の環境にやさしい農産物認証制度への申請は33件あった。面積は415haで前年よりも43ha増加した。

品目は、水稻が361ha（約87%）を占め、果樹が42ha（約10%）、野菜が12ha（約3%）となった。

申請内容の確認では、審査員とともに現地ほ場に赴き栽培管理等を聞きとった。



現地ほ場の確認

■今後の課題と対応

農薬の使用が制限される中、雑草や病虫害の発生が多くなっている生産者も見受けられる。

有機物の施用など土づくりを行った上で、適切な施肥、適期の防除などを確実にを行い、認証農産物の生産安定につなげたい。（技術経営係 小林）

[重点取組 2：持続可能な農業の取組とデジタル技術等の活用]

3 農業のDX化の推進

スマート農業技術の普及拡大

■活動の背景と目的

近年、農業従事者の高齢化や減少などを補うものとして、スマート農業に関心を集めている。

北信地域でもスマート農業の導入・普及に向け推進することを目的に、管内市町村・JA・農業共済組合、地域振興局農地整備課・当センターがメンバーとなり、令和7年4月に「北信地域スマート農業推進会議」を設立し活動を始めた。

■活動の取組と成果

1 北信地域スマート農業機械（草刈機）現地検討会の開催

中山間地域で課題となっている大きな法面での除草を効率的かつ安全に行うことを目的に、5社のメーカーの協力を得て8月6日に飯山市豊田で草刈機の実演会を開催した。実演会場はこの地域で水稻栽培を行っている（農）戸狩サンファームが管理する畦畔をお借りした。草刈機は、（株）関東甲信クボタの「トラクタ+オフセットシュレッダ」と、（株）やまびこ、（株）牛越製作所、（株）オーレック、（株）麻場の4社による45度の傾斜まで対応するリモコン草刈機を用意した。5カ所の畦畔で、各メーカーの担当者が持ち込んだ機械の説明・実演を行った。参加者は4班に分かれて、畦畔を回りながら説明・実演を受けた。各機械それぞれ特徴があり、参加者は真剣に見入ったり、熱心に質問するなどし、機械の特性が確認していた。



畦畔草刈機の実演

2 研修会の開催

12月10日には、情報共有を図り、地域でのスマート農業の推進につなげるため第3回会議を研修会として開催した。農業技術課先端技術担当から県内での導入状況の説明、当センター職員より農業WEEK：スマート農業EXPOの紹介、のうさい北信支所職員より飯島町へのRTK導入状況・直進アシストトラクタ（後付け装置）やドローンでの活用状況等視察の報告を行った。また、（農）やなぎはらのドローン導入の経緯や使用状況などの事例紹介を行った。今回の研修により、スマート農業への理解を深めることができた。



研修会

■今後の課題と対応

スマート農業機械の現状を知ってもらうことを中心に、実演会、研修会等を開催した。今後は、果樹や野菜・花きなど園芸品目での導入推進も含めながら、スマート農業への理解をより深め、推進につなげることを目指していく。

（技術経営係 小田中）

[重点取組 2：持続可能な農業の取組とデジタル技術等の活用]

4 農作業安全の推進

関係機関及び団体と連携した 農作業安全の推進

■活動の背景と目的

長野県農業機械士協議会下高井支部と連携し、農業機械メーカー等の協力を得て農作業安全啓発活動を実施してきた。

■活動の取組と成果

4月9日に「令和6年度北信地区農作業安全推進会議」を開催し、管内市町村・JA・のうさい等関係者で本年度の農作業安全推進活動計画を確認した。

9月10日に農業機械士協議会下高井支部会員5名がトラクター行進による秋の農作業安全啓発を行った。行進の途中に、近くの保育園に立ち寄り、園児たちのトラクターへの乗車体験を行なった。園児たちは、農業機械を家で見っていたり興味を持っていて、楽しそうに各機械に乗っていた。園児たちには家に帰って家族に、乗車体験したことと併せて、怪我をしないようにと言う話があったこと等、農作業安全の話を伝えるように呼びかけた。

また、HP等を活用した啓発を6回実施した。



保育園児の乗車体験

■今後の課題と対応

次年度も引き続き、農業機械士の活動を支援しながら農作業安全啓発を実施する。

特に、トラクター行進による保育園訪問は好評で、家族内での話題に上ったことを農業機械士が知り合いの話や御礼の連絡などから実施効果を確認しており、継続実施したい。

(技術経営係 小田中)

農作業安全啓発活動

■活動の背景と目的

昨年度管内で農作業死亡事故が1件あった。

このため、若手農業者、及び高齢者を中心とした農業者への農作業安全啓発が求められる。

■活動の取組と成果

5月と9月の「農作業安全運動月間」に合わせ、北信州農業道場で、農業機械の安全な使用方法を学んだ。



トラクタと草刈機の安全使用講習

また、庁舎周辺で「のぼり旗」の設置、広報巡回を行ったほか、各種会議及び講習会で啓発シールの配布等による啓発活動を実施した。



広報車による啓発巡回

■今後の課題と対応

啓発活動を進めたものの、熱中症事故が2件、下敷事故が1件、コンバインでの巻込事故が1件発生した。高齢者を中心に一層の農作業安全啓発活動が求められる。

(技術経営係 小田中)

[重点取組3：実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化]

1 良食味米や業務用米・酒米など需要に応じた米生産の推進

高品質米の安定生産とブランド化

■活動の背景と目的

北信地域は良食味米の産地で、各地でブランド化に取り組んでいる。

しかし、近年では夏季の高温の影響から、外観品質が低下し一等米比率が低下している。さらに、収量も以前より少なく、農家所得の減少が危惧されている。本年はさらに7月に降水がほとんどなく、水不足による渇水被害も一部で発生した。

また、コシヒカリに比較して高温登熟性に優れる品種「にじのきらめき」が注目され、作付けの検討を行う農家等が増えてきている。

良食味を維持しつつ、外観品質も高めるため、水管理、施肥の改善等に取り組み、前年並みの一等米比率を確保したが、難防除雑草の発生や倒伏などの問題が確認された。

これらの課題を解決するため、JA、市町村と連携して現地巡回指導会、雑草イネ発生状況調査、種子生産ほ場審査等を行った。

■活動の取組と成果

1 水稲現地巡回指導会の開催

今年度水稲の生育は、初期生育がやや劣ったが6月から平年に比較して気温が2℃以上高い高温傾向となり、現地指導会では、高温傾向に対応した水管理や出穂期、成熟期の予測などに関心が高く、質問も多く出された。また、7月はほとんど雨が降らず、一部の地域で渇水が問題となり技術



水不足により干上がった水田（栄村）

対策情報を市町村、JAを通じて発信した。

2 雑草イネ防除対策の推進

管内一部の地域で雑草イネの発生が問題となっており、8月に関係者で雑草イネの発生状況調査を行った。雑草イネ調査アプリを活用して調査を行い、調査結果を共有できるようにした。

3 優良種子の生産安定

コシヒカリより高温登熟性に優れる品種としてJAながのみゆきブロックでは「にじのきらめき」の導入を推進している。



種子ほ場での関係者による抜き取り作業

県内でも「にじのきらめき」の生産希望が増加しており、種子生産のため飯山市瑞穂地区で「にじのきらめき」の種子生産が始まった。

6月には、関係者が集まって種子生産ほ場の漏生イネの抜き取り作業を行った。

8月と9月にはほ場審査、12月～1月には生産物の発芽調査を行い、全筆合格となった。

■今後の課題と対応

今後も夏季の高温により水稲の品質維持が難しくなることが想定される。新品種の導入により収量の向上を図りつつ、高温に対応した技術によりコシヒカリの品質向上を図る。また資材を投入した土づくりの励行や、一発施肥から分施への転換などコストが増大する可能性があり、農家所得を確保するよう支援を行う。雑草イネについては防除推進のため、生産者への防除意識の向上を図る。

（技術経営係 細野）

[重点取組3：実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化]

2 高品質で収益性が高い果樹経営の推進

りんご・なしの安定供給に向けた 産地の維持

■活動の背景と目的

りんごは当管内の主力品目であり、なしは「南水」を中心に果樹産業の一角を担っている。近年は温暖化で開花期が早まり、凍霜害が起りやすい環境である。新たな対策として、オイルヒーターが導入されつつあり、その効果の確認を行いながら凍霜害予防の啓発活動を行った。

■活動の取組と成果

4月7日から8日朝にかけて中野市の立木プラム園でオイルヒーターを設置し、効果の確認試験を行った。外気温を測定した結果、未設置園の最低気温が -1.7°C で、氷点下以下の遭遇時間が3時間20分であったのに対しオイルヒーターから5m離れた地点での最低気温は -0.5°C で氷点下以下の遭遇時間が1時間40分であった。

4月9日に凍霜害防止の広報活動を行い、併せてオイルヒーターの実演会を実施した。

なお、本年度は極端な低温がなかったため、目立った凍霜害の発生はなく、十分な結実量が確保された。

りんごの腐らん病対策は4月7日にJAながのみゆきBりんご部会の腐らん病点検に同行し、降雹後の5月25日にJAながの志賀高原Bの着果点検に合わせて啓発活動を行った。



オイルヒーター実演会

■今後の課題と対応

凍霜害対策については、毎年実施することで啓発の効果が得られると考えられるので、次年度以降も適切な時期に啓発活動を実施していく。

(技術経営係 徳永)

需要に応じたぶどう生産による 産地強化（種なしぶどうの生産安定）

■活動の背景と目的

当地域は種なし・大粒ぶどうの栽培が盛んで、近年は皮ごと食べられる赤系の県オリジナル品種「クイーンルージュ®」の導入が進められているが、着色の不安定さや摘粒時間が他の品種と比べて長くなるなどの課題がある。特に摘粒に時間がかかることは品種導入の意欲を削ぐため、摘粒の省力化について取り組んだ。

「シャインマスカット」の好適樹相の周知と黒系品種の実態調査は6月から行う予定であったが、降雹被害でデータ収集が難しくなったことから、今年度は断念したが、1月30日にJA中野市ぶどう部会が優良事例報告・栽培検討会を開催し、栽培優良者の栽培状況を共有した。

昨年度の雪害で被災した樹体の追跡調査も行った。

■活動の取組と成果

「クイーンルージュ®」の摘粒省力化技術は、12月に行われたぶどう部会の栽培反省会で周知した。優良事例報告・栽培検討会は100名を超える参加者があり、非常に盛況であった。

「クイーンルージュ®」の摘粒省力化については、支梗の間引き時期の検討を行い、軸長調整時に間引きを行った方が、摘粒時に行うよりも省力化効果が高かった。優良事例報告でも「シャインマスカット」では花穂整形時に軸長を基準より短くすることで摘粒の省力化が図られることが発表された。

雪害後の樹体調査では今年の収量に大きな影響がなく、新たな知見が得られた。

■今後の課題と対応

今年度は5月21日の降雹により、当初予定していた計画が実施できないことが多かったが、摘粒や新梢管理の省力化技術の導入や黒系ぶどうの振興は今後も継続して続けていかなければならない課題である。雪害後の樹体調査も継続調査を行う予定である。

(技術経営係 徳永)

[重点取組3：実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化]

3 アスパラガス産地の再構築と果菜類の生産振興

野菜の品質向上と生産振興

■活動の背景と目的

北信地域ではアスパラガスが全域で栽培され、主力品目となっているが、土壌病害（疫病等）や茎枯病の多発等により生産量は年々減少している。そこで、アスパラガス高単収・省力化を図るため、新技術の実証と雨よけ栽培の普及のためモデルほを設置し、講習会等を開催した。

その他、果菜類の作期拡大と出荷ロスの低減を図るため、きゅうり等で暑さに強い品種の選定調査や簡易雨よけと灌水の必要性を中心に指導を行った。

■活動の取組と成果

1 アスパラガスの生産振興

高単収省力化栽培の実証では、中野市の法人が大型ハウスと2畝のパイプハウス計約20aで、枠板式高畝栽培の試験を開始した。4月中旬に棟ごとに「ウェルカム」「ハイパーウェルカム」「ゼンユウガリバー」「SY4-033」の4品種定植し、JA全農長野と定植後の水管理等を指導した。1年目の生育は順調で、1月に測定した貯蔵根Brix（糖度）は20前後で、来春の収穫量が期待される。



アスパラガス枠板式高畝栽培（中野市）

また、短期完結栽培をJAながのと協力し、現地実証を行い、前年春の定植で6cmポット苗と200穴セル苗で収穫量等を比較調査した。収穫量は両区とも950kg/10aと差はなかったが、L級以上本数は、ポット苗の方が多かった。

雨よけ栽培のモデルほ場を中野市、飯山市、木島平村に設置し、北信州農業道場「野菜・花きコース」で、現地ほ場を見学して講習会を開催した。

2 果菜類の作期拡大と出荷ロスの低減

露地きゅうりでは、夏の高温・乾燥に強く、草勢の落ちない品種を選定しようと、中野市で5品種の調査を実施した。また、JA全農長野と簡易雨よけを試験し、収穫期が10月末までと雨よけ無より約1カ月延長し、単価が高くなる時期でもあり期待したい。



きゅうり優良品種選定試験ほ



きゅうり簡易雨よけ栽培試験ほ

ズッキーニは、春作で5品種検討、夏作で3品種定植したが、7月の高温・干ばつで生育悪く調査を中止した。



ズッキーニ優良品種選定試験ほ（春作）

■今後の課題と対応

アスパラガスは、雨よけハウスによる半促成長期どり栽培と、露地の茎枯病対策として簡易雨よけ栽培を推進する。

果菜類では、生産安定のため、灌水装置の設置を推進し、夏場の高温対策につなげたい。

（技術経営係 小林）

**ぼたんこしょう等の特色ある
伝統野菜の生産振興
(中山間地農業ルネッサンス推進事業)**

■活動の背景と目的

信州の伝統野菜については、各地の気候風土に適応した特徴的な味や形、香り等を有しており、地域の特産物として各生産組織で生産されている。北信地域においては、ぼたんこしょうやししこしょう等、計6品種の伝統野菜が存在し、当センターでは栽培指導等を通じた品質向上や、組織活動をととした商品開発・販路開拓を支援している。

■活動の取組と成果

1 ぼたんこしょう

ぼたんこしょうの栽培講習会および目揃い会を7月24日に実施した。ぼたんこしょう保存会会員を対象に、現地栽培ほ場の生育状況を確認しながら、今後の管理方法について講習を行った。今年度は高温少雨であり、例年に比べて生育の遅れや日焼け果の多発が懸念されたため、かん水や葉面散布の徹底を図った。会員からは高温干ばつ対策への質問が出た。



栽培講習会

同日、ぼたんこしょう保存会の加工施設でJAとともに目揃い会を行った。ぼたんこしょうは直売所の他にJAを通じて量販店に出荷されている。量販店からは「安定した出荷量を維持してほしい。」と要望を受けており、保存会として期待に応えられるよう、出席者で等階級を確認し合った。会員からは「近年、日焼け果や尻腐れ果の発生が多く、出荷物に紛れないように気を付けたい。」との声が聞かれた。



目揃い会の様子

2 ししこしょう

栄村の伝統野菜であるししこしょうについて、ししこしょう部会員の技術向上と新規加工品の開発等に注力して活動を行った。

今年度は安定して早く定植ができる苗の確保のため、育苗管理をJAに委託し、3月下旬にトレイ播種、4月24日に会員がポット上げ、5月21日には完成した苗の引取りと村内配布が完了した。これにより、以前各自が育苗していた時より1か月近く早く出荷ができるようになった。



会員によるポット上げ

5月30日及び6月5日は定植状況を確認しながら定植後管理についての栽培資料を配布し、摘花や誘引、追肥等の指導の個別巡回を行った。併せて、栽培履歴記録表の記帳も説明し栽培意識の向上を図った。

ししこしょうの栽培において、近年の高温による収量・辛味低下や、アブラムシ等を媒介したウイルス病の発生が現地の課題となっている。そこで、昨年度に引き続きししこしょうの栽培に適したマルチ資材を選定するため、マルチ資材の違い

が収量にどう影響するかを部会員協力の下実施した。なお、今回は個数調査ではなく、各区5株についての収穫重量調査に切り替えた。

試験区としてシルバーストライプマルチとシルバーポリマルチを使用し比較した。結果として、アブラムシ類の忌避効果に加え、地温抑制が優れるシルバーポリマルチの収量が、シルバーストライプマルチに比べて1kg（5株調査）多かった。

1月27日には調査データをまとめたものを部会員へ報告した。今後、調査データのまとめを利用ししししょうの収益指標等を作成し、新たな部会員確保等に役立てていく方向である。

3 こしょう交流会

伝統野菜「こしょう」ならではの新たな可能性を探り、地域全体の価値向上を目指すことを目的に、11月11日にこしょう交流会を開催した。

こしょう交流会には、ぼたんこしょう保存会（中野市）、ししこしょう部会（栄村）、しなの出荷協議会伝統野菜部会（信濃町）の3組織、25人が参加した。当日は信濃町道の駅「しなの」を視察し、加工品について学んだ。ぼたごしょうを使用した加工品を購入する参加者も多くみられた。



交流会

また、各組織の活動発表をおこない、情報の共有を図った。交流会は大いに盛り上がり、各組織とも担い手不足という課題はあるものの、今後も積極的に取り組んでいく意欲が見られ、参加者からは交流会は大変有意義あるので、継続して開催してほしいとの意見があった。

4 「前坂大根の会」

山ノ内町の「前坂大根の会」では学校栽培支援事業を活用し、会の共同ほ場で山ノ内西小学校の3、4年生とともに前坂大根の栽培（播種、間引き、収穫）、漬物加工を行った。

児童らは、会員から前坂大根の来歴や町内旅館等で漬物として親しまれてきた事などを学び、日頃馴染みのない畑の土や植物に興味を寄せていた。また、自ら収穫した大根をたくあん漬けに加工し、おにぎりを作り、会員と味わった。



「前坂大根」収穫の様子

■今後の課題と対応

伝統野菜は生産者の高齢化による組織体制の維持が課題であり、早急に担い手を確保する必要がある。そのためには伝統野菜について広く周知を図るとともに、引き続き、情報交換ができる場を積極的に設定していきたい。

（地域係 赤羽、青木、西川）

[重点取組3：実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化]

4 シャクヤク産地の維持・強化と露地花き品目の生産振興

主要花き品目の生産拡大

■活動の背景と目的

当地域の花き生産は、生産量全国一のシャクヤクをはじめ、露地品目を中心に多様な品目が栽培されている。このうち、シャクヤクは露地を中心に栽培されている。近年は早生品種の出芽時期が前進傾向となり、春先の低温による凍害で不開花や品質の低下が問題となっている。

そこで、シャクヤク露地ほ場で省力化を目指した被覆方法の凍霜害対策効果を検討する。

■活動の取組と成果

1 シャクヤクの凍霜害対策

春先の低温による凍霜害はシャクヤクの課題の1つとして対策が検討されてきている。今年度は省力化を主眼に試験を行った。

4種類の被覆資材（①パオパオ、②有孔ポリ、③ラブシート、④パオパオ+ビニール）を凍霜害の危険期を通して被覆し、茎が伸長して被覆資材に触る前に被覆を外す方法で（但し、被覆資材は外した後も横に置いておき、凍霜害の心配があるときは被覆する）、効果試験を行った

今年の気象条件では、温度変化を抑える効果が高く、生育が最も早かったラブシートが低温対策に適する結果となった。

また、4月28日には現地検討会を行った。



シャクヤクの低温対策現地検討会

■今後の課題と対応

シャクヤクの凍霜害対策は依然大きな課題であり、継続して対策試験を行う。

（技術経営係 小田中）

特色ある花き品目の導入推進と生産支援

■活動の背景と目的

近年、ソリダゴで7月の台刈後に株が枯れる症状が目立ってきており、対応策の検討が急がれる。

■活動の取組と成果

1 ソリダゴの株落ち対策

株落ちの原因を夏場の高温及び台刈りによる急激な状況変化によるものと想定して、被覆による地温低下の効果確認、2回に分けて行う台刈の効果試験を行った。

被覆は「敷きわら」と「不織布（タイベック400WP）」を用い、裸地を慣行して3区設置し、株落ちや草丈、地温の比較をした。株落ちは明確な差が無かったものの、被覆により初期生育が良く草丈も10cm前後長く、上位等級が増えたことから所得向上が期待される。

台刈試験は①2回に分けて台刈、②茎葉の一部（5本程度）を残して地際まで台刈、③1回で地際まで刈る慣行の3区とし、株落ちや草丈などを比較した。2回台刈など地上部を一部残すことは株落低減効果があり、着蕾が10日程度早く、収量増が期待される。

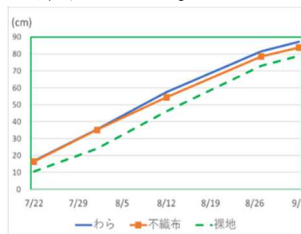


図1 被覆による草丈

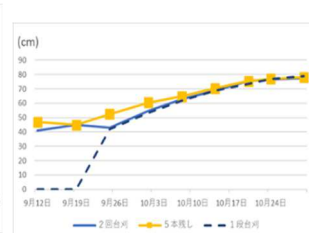


図2 台刈方法による着蕾期と草丈

9月10日に現地検討会を開催し、生産者は効果を実感し、わら被覆を取り入れる生産者が複数いるなど株落ち低下につながることを期待される。



ソリダゴの高温対策現地検討会

■今後の課題と対応

引き続き対策試験を被覆実施時期の違いを含めて行い、株落ち軽減を図る。

（技術経営係 小田中）

[重点取組3：実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化]

5 畜産物地域ブランドの向上

飼養管理技術の向上と 経営の安定対策推進

■活動の背景と目的

畜産農家の経営改善を図るため、資金借り入れ者へ定期的な指導・検討会や経営改善計画作成等を支援している。

■活動の取組と成果

畜産経営改善推進協議会による検討会を当センター、家畜保健衛生所、JA、担当獣医師、金融機関で農場の経営者を交えて定期的実施した。

一時事故率が10%を越えて推移したが、ワクチン接種の見直し、暑熱対策を講じることで減少した。また、出荷1頭当たりの飼料消費量が多かったことから制限給餌を実施した。餌の散らかしが減り、飼料の無駄が減少した。

■今後の課題と対応

経営改善のために、屋根の補修、畜舎の環境改善等による更なる事故率の低下と、1頭当たり生産コストの減少を図っていく。(地域係 宮原)



飼料用とうもろこし

3 牧草地の改良

牧草の簡易更新が行われた高標高地の採草地では夏の高温、少雨により生育が良くなかった。雑草対策を含めた管理を行うことで、今後の生育を期待したい。

■今後の課題と対応

飼料価格高騰により経営が厳しいが、少しでも労力削減、コスト低減を図るため、良質な自給飼料生産を行っていく。(地域係 宮原)

飼料価格高騰に対応した自給飼料生産

■活動の背景と目的

管内畜産農家で自給飼料生産は少なく、規模の大きな農家のみとなっている。輸入飼料が高騰する中、経営コスト削減と安全な飼料確保のため、自給飼料の生産を推進する。

■活動の取組と成果

1 飼料用とうもろこしの適期収穫

ほ場巡回により生育状況の確認、ミルクライン法による収穫適期の判断を行い、農家へ適期収穫の指導をした。

2 自給飼料共励会への出品

自給飼料の品質、調製方法等を改善するため、自給飼料共励会への出品を促した。

1月15日に開催された飼料用とうもろこしサイレージの部へ、管内より1件の出品があり、現物審査が行われた。入賞には至らなかったため、審査結果を来年の栽培に活かしていくことが期待される。

安全・安心・環境に配慮した 畜産の推進

■活動の背景と目的

畜産では衛生害虫や臭気等、近隣環境への影響に配慮して飼育する必要があり、関係機関と連携し飼育環境の改善、飼養衛生管理基準の徹底を行う。

■活動の取組と成果

養鶏場でのハエ発生状況を6月から10月にかけて関係機関と調査した。定期的に散布している脱脂阻害剤に加え、成虫阻害剤も散布したこともあり、夏を過ぎたあたりの発生が例年より減少した。

■今後の課題と対応

例年発生が多くなる5月初旬の発生を減少させるために、早めの成虫阻害剤の散布を検討する。(地域係 宮原)

[重点取組 4 : 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり]

1 農地の利用集積による規模拡大の促進

地域計画（人・農地プラン）の推進

■活動の背景と目的

農地の集積・集約化、地域農業の継続を図るため将来の農地利用の姿等を明確化した、地域計画（設計図）策定が推進されている。地域の農業者が主体となり、10年後を見据え誰どのように農地を担うのか、各地で農業者、農地所有者、地域住民等での話し合いが進められている。

■活動の取組と成果

【中野市】

今年度は新たに市内10地区（中野、日野、延徳、平野、高丘、長丘、平岡、科野、倭、豊田）で地域計画策定に向けた座談会が開催された。地域農業の将来に向けたアイデア出しと現況地図の確認、目標地図（更新）の確認を行った。当センターでは10地区のうち、2地区の座談会に参加し、ブラッシュアップに向けた支援を行った。今後も適宜支援をしていく。

【飯山市】

瑞穂地区の3つの耕作組合（みずほ、南瑞、北瑞）の内、2つが統合し、作業申込の一本化、オペレーター、機械利用の効率化を図った。柳原地区では、地域の農業者を含めての再基盤整備についての話し合いが行われ、用排水路の改修、畦畔の緩傾斜化をメインに進めていくことになった。来年度以降も各地区課題解決に向け支援していく。

【山ノ内町】

町内5地区（東部、西部、南部、沓野区、須賀川）において、地域計画のブラッシュアップに向けた座談会が開催された。また、（一社）農業会議、農業委員及び役場職員による地域計画に係る勉強会を実施した。引き続き、関係機関へ制度理解の促進を図るとともに地域計画の目標達成に向けて支援していく。

【木島平村】

今年度に農業委員が改選されたため、改めて地域計画の説明及び進捗状況の共有がなされた。また、農業委員による地域住民へ呼びかけ、担い手意識の向上を促進した。一部地域では、担い手の声を受けて農地整備が進められている。2月21日

には村内若手野菜栽培者、農業委員と意見交換が行われた。来年度以降も策定した地域計画の見直しに対して助言を行い、支援していく。

【野沢温泉村】

昨年度までに村内9集落において地域計画の話し合いが行われ、地図に落とし込むことができたが、一地区において諸事情により約3haの農地が活用されなくなってしまった。

地区の農業委員からも活用方法について相談があり、いくつかの作目提案を支援センターとしてしてきた。今年度提案した品目の中で検討した結果、その地区内で新たに栽培が始まりつつあり、村内で活用できる可能性がある「ホップ」栽培が有力候補となった。今後ホップの納品先になる実需者等の意向も確認しつつ栽培の検討支援をしていく。

【栄村】

11月28日に栄村農村振興意見交換会が行われた。中山間地域直接支払の集落協定15地区の代表者、農業委員、最適化推進委員、村議会議員が集まり、地区ごとに分かれ、総務省地域力創造アドバイザー塚田佳満氏をファシリテーターとして呼びし、ワークショップを行った。ワークショップでは、今後の集落のありたい姿を実現していくにはどうしていけば良いか検討を行った。次年度以降は、集落ごとの課題をさらに深堀していく。



ワークショップ中

■今後の課題と対応

地域計画を作成することが目的ではなく、今後、作成した「地域計画」の見直しを随時行い、適正な農地の管理を行っていく。

（地域係）

[重点取組 4：農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり]

2 野生鳥獣対策の推進

野生鳥獣被害ほ場における対策の推進

■活動の背景と目的

国庫補助事業を活用して広域防護柵の設置等による野生鳥獣被害対策が行われているが、シカやカラス等、一部の獣種による被害が目立っている。また、クマによる農作業中の人身被害が懸念されるため、被害軽減の対策を推進した。

■活動の取組と成果

1 廃果の適切な処理の啓発

収穫・販売せず園地等に捨てられた果実や、管理が不十分なカキ・クルミ等の庭先果樹が、カラスやクマを集落に誘引する一因となっている。今年度は、カラスの個体数削減を目的に、積雪のためエサが限られる冬季の廃果対策を重点的に呼びかけた。



廃果処理を呼びかけるチラシ

2 広域防護柵設置に向けた実態把握

山ノ内町の南部地区において、令和8年度の広域防護柵設置に向けた動きがみられる。当センターでは、実態把握のため、センサーカメラを周辺地域や園地に設置し、シカやイノシシ等の生態や被害状況を継続的に撮影した。撮影した動画は、講習会や防護柵設置に向けた集落合意形成の座談会等で活用した。

■今後の課題と対応

管内の鳥獣被害の実態把握に努め、獣種や環境に応じて、防護柵設置や集落環境整備等の複合的な被害対策を実施する。

また、近年、積雪期のシカやカモシカによるリンゴの枝幹被害が多く確認されているため、省力・低コストで取り組める対策を検討する。

(地域係 西川)

[重点取組 4：農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり]

3 農業資産・農村資源の活用と PR

観光的要素を組み入れた農業農村の PR・交流の促進

活動の背景と目的

北信地域の魅力的な観光資源をイベント等を活用してPRし、資源の認知度・消費の向上を図るとともに、農業農村組織の自主的な活動を促進し、農村地域の活性化を図る。

■活動の取組と成果

1 女性農業者による飯山駅における農産物頒布

中野市・山ノ内町の女性農業者で構成される「農村女性ネットワークたかやしろ」は、中野市から地元農産物の消費拡大業務を受託し、2月7・8日に飯山駅において観光列車「雪のおいこつと号」に乗り下車する観光客を対象に中野市産のりんごやきのこを使ったお菓子、中野市をPRするパンフレットの頒布を行った。



飯山駅での地元農産物頒布

■今後の課題と対応

北信管内の資源のさらなる活用及び、農村組織の活動推進に向け、関係機関との連携強化を図り効果的な動きを後押しする。

(地域係 西川)

[重点取組 6 : 食の地産地消の推進と次代への伝承]

1 農畜産物の魅力を活かした、地産地消・食育の促進

各種イベント等を通じた農畜産物の PR、認知度向上、地域内利用促進

■活動の背景と目的

イベント等を通じた北信州産食材の魅力発信、直売所出荷の農産物の品質向上等により地産地産を推進する。

■活動の取組と成果

1 北信州おいしい食材フェア 2025 開催による 魅力発信

北信州の魅力ある特産品「アスパラガス」「伝統野菜」「きのこ」「みゆきポーク」等の食材を知ってもらい、味わってもらい、北信州おいしい食材フェア 2025 を開催した。北信州の飲食店に協力いただき、地元産食材を活用した料理等を食べるスタンプラリーへの参加を行い、前半 577 名、後半 501 名の登録をいただいた。また、支援センターからブログ等で旬の食材情報を 50 回発信した。



フェアに提供されたみゆきポーク
の「やわらかとんかつ定食」

2 直売所の活性化に向けて

12 月 5 日に、北信地域農産物直売所・加工組織研修会を計画したが諸事情で急遽中止になった。その代わり、研修会講師より了解を得て研修会資料を持参しながら、管内直売所等を地域係職員が顔つなぎを兼ねて巡回し課題等の聞き取りを実施した。聞き取った共通課題については次年度解決に向け対応していきたい。

3 ししこしょう商品の魅力アップ支援

昨年度、辛味噌において事業を活用し内容量の規格変更やラベルデザインの刷新を行ってきた。

本年度も引き続き事業を活用、「一味」の再商品化に取り組んだ。支援センターでは一味の食品 OEM 会社の情報提供等を行い試験商品化に結び付いた。また、ラベルについても昨年度依頼のデ

ザイナーと打合せを行い、ししこしょう商品のシリーズ化が進んだ。



ししこしょう一味デザイン検討

【中山間地農業ルネッサンス推進事業】

4 木島平村地産地消の促進

木島平村学校給食センターからの依頼により、地産地消コーディネーターの派遣を実施した。依頼内容である、「継続的に無理なく地域食材が使用できる体制作り」を実現するため、木島平村学校給食地産地消協議会の設立支援を村内関係機関及び地産地消コーディネーターと協力して実施した。

5 信州の伝統野菜「前坂大根」の食育

「前坂大根の会」と協力して山ノ内町西小学校の 3・4 年生を対象に、前坂大根の播種や間引き、収穫などの栽培指導を行った。また、収穫した前坂大根を生徒自身で漬物に加工した。両親が非農家で農業に馴染みのない生徒も多くいたが、楽しみながら学べた様子であった。



会員による「前坂大根」の紹介

【中山間地農業ルネッサンス推進事業】

■今後の課題と対応

生産者はこだわって農産物や商品を作っているが、その魅力を消費者に伝えきれていない。商品等の良さが、消費者へ PR できるよう生産者に応じた提案をしていく。(地域係 赤羽、西川、竹元)

[重点取組 6 : 食の地産地消の推進と次代への伝承]

2 マーケティング力の強化による付加価値の向上

実需者と農業者のマッチングによる 販路拡大

■活動の背景と目的

農産物の販路拡大にあたり、生産者が営業活動で心得ておくべき点の習得支援を行うとともに、実需者と農業者の橋渡し等を通じて契約取引を推進する。

■活動の取組と成果

1 農産物販路開拓研修会の開催

7月31日に、新規就農者激励会に合わせ北信管内の新規就農者や青年農業者を対象に農産物販路開拓研修会を開催した。当日は、2名の農業者（中野市果樹農家、中野市水稻農家）から経営や販売の実践談を聞き、参加者はお二人それぞれの経営感覚に感銘を受けていた。人材確保や販売のこだわりについて質問が出され、熱気あふれる研修会となり、販路開拓への意欲が高まる場となった。



農産物販路開拓研修会

2 新たな販売先への橋渡し支援

県外の白ねぎをスーパー等へ卸している会社(実需者)と経営のリスク分散を考え新たな販路先を検討している木島平村の若手白ねぎ栽培農家とのWEB会議を1月15日に開催した。

白ねぎ卸会社である実需者からは、現状の経営状況や出荷の規格、出荷割合、販売価格等について取引に係る多くの質問を栽培農家へ問いかけ、確認し、現状の出荷している規格を変更しない場合の提案も出していただいた。今後損益分岐点分析等を行い、原価に見合った単価設定の支援を行い、農家側から希望取引単価を実需者へ回答する。

■今後の課題と対応

生産者の販路開拓にあたり、取引に必要な助言等をすすめて、売り込み強化につなげたい。

(地域係 赤羽)

2次、3次事業者等と連携した 商品力・販売力強化

■活動の背景と目的

地域ならではの農産物等にさらなる付加価値をつけるためには、消費者嗜好を踏まえた商品づくりが必要となる。そのために、専門家等と連携の上、商品のPR・販売強化や商品開発を図る。

■活動の取組と成果

1 プランナー派遣による販路開拓等の支援

R6年6月より、飯山市水の蔵みのり農園宮本氏に対し、信州6次産業推進員が主体となりホームページのブラッシュアップや経営を安定させるための雇用関係等に関する相談支援をしている。

推進員は、1月13日に宮本氏を訪問し、その後支援センターにおいて現在の状況や課題についての情報共有を行った。経営を安定させていくには、雇用確保が最優先となることが分かった。

2 ししこしょうの商品化に向けた2次事業者等との連携支援

ししこしょうでは、既存商品として辛味噌があり、その他R7年度は一味再商品化を図ってきた。

ただ、それだけではししこしょうの消費を伸ばしていくには商品アイテムが少ないため、今回商品開発の参考になればと、伝統野菜の商品化・販売を率先して行っている千曲市宮城商店（木の花屋）を紹介した。9月2日には、ししこしょうを持参し宮城商店において新たな商品開発の検討を行った。その結果、宮城商店の伝統野菜商品のひとつと同様の商品試作を行うことになった。



ししこしょう商品化検討

■今後の課題と対応

専門家等と連携し、引き続き支援を行い商品の魅力づくりと販売力強化、商品開発等をしていきたい。

(地域係 赤羽)